

はじめに

学校では、ポスターや新聞、授業のまとめなどいろいろなものをつくりまします。そのときに「Canva」を使うと、だれでもかっこいい、すてきなデザインのものをつくることができます。

『かんたん自由にデザイン学校でCanva』シリーズでは、Canvaの基本的な使い方や、どんなものをつくるのかのアイデアを、たくさんの写真とともに紹介しています。ぜひCanvaを使って、思い通りにデザインをすることを楽しんでください。

1巻の『基本操作をマスターしよう』では、

何をつくる时候にも共通するCanvaの基本的な使い方を説明しています。

この本を見ながら、いろいろな機能を試してみましよう。



もくじ

- Canvaってどんなもの? 4
- ホーム画面を操作しよう..... 8
- テンプレートを探そう 10
- 素材を使おう 12
- フォントを決めよう..... 14
- 自分の素材を使おう..... 16
- 生成AIで画像をつくろう 18
- 絵を自由に描こう 20
- データを保存しよう 22
- 動画をつくろう 24
- Webサイトをつくろう 26
- 著作権に気をつけよう 28
- さくいん 30

この本の使い方

1 Canvaの操作方法がわかる

デザインを進める手順を説明し、そのときに使う機能をくわしく案内します。



2 Canvaで何ができるのかわかる

子どもたちがCanvaでつくったものを写真で紹介することで、実際にどんなものがCanvaでつくれるかを説明します（6ページに続く）。



3 Canvaのデザインのコツがわかる

学校の授業の中で、Canvaを使ってポスターやパンフレット、動画などをつくる時に知っている便利な操作方法を紹介します。



ホーム画面を操作しよう

説明書などを見なくても、感じたままに操作できることが、Canvaの特徴のひとつです。Canvaへの登録を済ませてログインすると、このような画面が表示されます。「ホーム」を押せばいつでも最初の画面に戻れるので、いろいろタップしてみましょう。

各アイコンの名前と役割

1 メニューを閉じる

不要な場合はメニュー(12)を閉じる。

2 作成

デザインをつくり始める。

3 ホーム

今見ている画面に戻る。

4 プロジェクト

自分がつくっているもの、共同作業に参加しているものが表示される。

5 テンプレート

さまざまなデザインのテンプレートをここから探せる。

6 ブランド

よく使う文字や色の設定をセットにしておく、ここからすぐに使える。

7 Canva AI

Canvaの生成AIを使うためのメニューが表示される。



8 もっと見る

タップすると、使える機能がさらに表示される。

9 お知らせ

共同作業をしている人がデザインに何か手を加えたときなどに通知が表示される。

10 アカウント

自分の名前やメールアドレスなどを確認できる。

11 ゴミ箱

ゴミ箱に入れたデザインは、30日以内ならここからもとに戻せる。

12 メニュー

検索窓の上のタブで「あなたのデザイン」を選択しているとき、作りかけのデザインやお気に入りにしたデザインをここから直接開ける。

13 検索窓

これまでにデザインしたものを探すときは、上のタブを「あなたのデザイン」にして、検索する。テンプレートを探すときは「テンプレート」、生成AIを使いたいときは「Canva AI」を選択する。選択したタブによって、12、14、15の位置に表示される内容は変化する。

14 アイコン

新しくつくりたいときはここからも始められる。表示されている以外のものは「もっと見る」をタップすると出てくる。

15 最新情報・履歴

検索窓の上のタブで「あなたのデザイン」を選択していると、新しく追加されたデザインや機能、これまでに自分がデザインしたものが表示される。

16 ヘルプアシスタント

操作や機能でわからないことがあるときは、ここで質問するとAIが答えてくれる。

著作権に気をつけよう

著作権とはどんなもの？

だれかがつくった絵や文章、音楽や写真などを「著作物」といいます。著作物は、作者の許可なしに使ったり、内容を変えたり、インターネット上に公開したりすることはできません。この、作品をほかの人に勝手に利用されない権利は「著作権」といい、「著作権法」という法律で権利の内容が細かく決められています。

自分のデザインにほかの人の著作物を使いたいときには、著作権を持つ人の許可が必要です。これは有名な人の作品だけでなく、みなさんがつくった作品にもあてはまります。

著作物を使ってもいい場合

基本的にあらゆる作品には著作権がありますが、著作物を持つ人（作者）の許可を取らなくても、著作物を利用していい場合があります。代表的な例を紹介します。

文章を一部分だけ引用するとき

「引用」は、本やインターネットにあるほかの人が書いた文章を、自分の文章にのせるときなどに用いられるルールです。引用するときには、引用部分はかぎっこで囲むなど、自分の文章と区別できるようにします。また、引用した部分は形を勝手に変えてはいけません。どこから引用したのかがわかるように、本の場合は「筆者」「書名」「出版社名」「発行年」「書かれていたページ」を書いておくことも必要です。



デザインをするときに気をつけなければいけないのが「著作権」です。Canvaの「素材」にある絵や写真などは、デザインをするときに自由に使ってよい決まりになっていますが、自分で用意した素材を使うときには、注意が必要です。

学校の授業内や自宅で利用するとき

学校の授業で作品を複製して利用するときや、家で自分が楽しむために使う場合は、ほかの人の著作物を許可を取らずに使うことが認められています。

ただし、学校の授業や自宅で使う場合でも、学校外に配布する、インターネット上で公開するなど、だれでも見られる状態にするときには、著作権を持つ人の許可が必要になります。



著作権がなくなっているとき

著作権には期限があります。発表されてから時間が経って期限が切れている場合は、許可なく使うことができます。また、作者が作品を自由に使ってよいと表明している場合も、許可をもらわずに使用できます。

これら許可を取らずに使えるケースでも、作者名を入れるなど条件をつけている場合もあります。大人と相談してから使いましょう。



ワンポイント！肖像権にも気をつけよう

デザインをするときには「肖像権」にも気をつけます。肖像権は、勝手に自分の写真を撮られたり、自分が写った写真を公開されたりしない権利のことです。自分の撮った写真を素材にする場合、そこに人が写っていたら本人に許可をもらう必要があります。

芸能人やスポーツ選手などの有名人の画像には「パブリシティ権」が発生します。ポスターなどの画像を勝手に使うことは、つくった人の著作権を侵害していると同時に、その有名人の権利を侵害していることにもなりますので、注意が必要です。